

# 私たちの宗旨は、浄土真宗です

## 【本尊】

南無阿弥陀仏（本願の名号）

阿弥陀如来像（方便法身尊形）

## 【正依の経典】

『仏説無量寿経』（大経）

『仏説観無量寿経』（観経）

『仏説阿弥陀経』（小経）

## 【宗祖】

親鸞聖人（愚禿釈の親鸞）

## 【宗祖の著作】

顕浄土真実教行証文類（教行信証）

## 【宗派名】

真宗大谷派

## 【本山】

真宗本願寺（東本願寺）

高田教区御遠忌テーマ

『私はどこで生きているのか』  
～たずねよう真宗の教えに～

企画：高田教区靖国問題研究班  
発行：真宗大谷派高田教区教化委員会  
〒943-0892 上越市寺町2-24-4  
☎025-524-3913 Fax025-524-2645  
URL <http://www.takada-kyoku.jp>  
E-mail [takada@higashihonganji.or.jp](mailto:takada@higashihonganji.or.jp)  
2017年6月発行

# 『迷信』とは？

～私はどこで生きているのか～



五濁増のしるしには

この世の道俗ことごとく  
外儀は仏教のすがたにて  
内心外道を帰敬せり

『正像末和讃』聖典五〇九頁

○「迷信」：道理に合わないことや神秘的なことを信じること（『新字源』）

「迷信」は、私たちの日々の生活の中に当たり前のように浸透しています。一般的には、道徳に反するような知識や俗信のうち、社会生活に実害を及ぼすものだと言われています。私たち「真宗門徒」はこれをどう受け止めていけばいいのでしょうか。

## 〽迷信は無知が

生むものではない

〽欲望が生むのである〽

現代社会を生きる私たちにとって迷信といえ、前時代的で何の科学的根拠もない、つじつまのあわない作り話のように理解されていきます。しかしながら、私たちは心の拠り所として迷信を信じ、すがっています。

例えば、葬儀から帰ったら清め塩をまいたり、子や孫の入試などで合格祈願をして、お守りを買う風習があります。しかし、清め塩をしたからといって、病氣や死から逃れることはできませんし、お賽銭やお守りの力で、合格は出来ません。そこには、死者を穢れけがとして見たり、人としての弱い心がお守りというものに手を出させているということがあるのではないのでしょうか。そもそも、そうした行為が結果に影響しないことなど、すでに知っていたのではありませんか。

迷信とは、知らないこと（無知）から起こるのではなく、すべて私たちの欲望（煩惱）から生まれてきているといえます。

真宗のお寺には神棚やお守りがありません。私たち真宗門徒にとってお守りはいらぬものなのです。ならば、なぜお守りを求めるのか。その理由は、私にとって都合のよいこと（成功）を追い求め、都合の悪いこと（失敗）を避けたいという欲望があるからではないでしょうか。結局、自分の都合がよければ、私は満たされたと思います、自分の都合が悪ければ不満に思うのです。それを繰り返して、常に不安を抱え続けて



いることが「迷い」の根源的意味なのです。

この迷いを「罪ざい福ふく信しん」といいます。親鸞聖人が「外儀げぎは仏教ぶつぎょうのすがたにて」といわれるのは、お内仏の前では手を合わせて、外見は仏教徒のような姿に見えても、心内は煩惱にとらわれ、真実を見失い、「外道げどうを帰敬ききょう」して、迷いの中にいるのが「罪福信」の姿なのです。

最近では、スマートフォンなどが普及し、高度に情報化した時代を迎えています。あらゆるメディアにおいて、占いを目にします。同じ内容を伝えているところは一切ありません。しかし、私たちは、他人が自分のことをどう思っているのか、今日はどうなる日になるのかを気にするあまり、その不安の解消を求めて、占いにすがっています。実際、占いを見ても当たらない事の方がずっと多いにも関わらず、当たらないかた時は見過ごして、当たった時だけ喜び、常に自分自身にプラスになる情報を探して、選んでいます。

逆に言えば、私たちは常にいろいろな不安を抱えているからこそ何が迷信で、何が真実なのかを知りたいのです。

誰でも自分のことは自分が一番知っているとと思っています。しかし、煩惱によって真実ではないことを信じ、自分よりはるかに自分を見てくださっている仏の教えを聞くこととしないのです。それが私を不安にさせる迷信の正体なのではないでしょうか。